



八月号

発行人 鳳凰原岬
二〇二五年八月十日 発行

今月の十人+1

鳳凰原岬

鳥さんの瞼

深山睦美

全美

きんかく

彩結ゆあ

森屋たもん

ただのたなか

鈴木智花

武井窓花

はるかぜ



し 鳥さんの臉

ひらきつばなしの廊下のドアもなつかしくなる時は来るあなたの死後に
ぶどうからぶどうの枝をとりはずす すべての死に名前はつけられる
もし明日あなたが死ねばGoogleにまずやることをきく私だろう
ひつたりと看護師さんがさす針の安楽死ってこんなつめたさ？

side 魔女 鳳凰原岬

ひさしぶりわたしがあげた脚はどう？あなたの喉はご覧とおり
愛されて育ったひとの喉だからきつと王子は振り向いたんだ
もう二度と王子に焦がれはしないよう帰っておいで泡の姿で
本当は王子のことは好きじゃないあなたの喉が欲しかっただけ
大丈夫いつまでだって待ってるね人魚は泡に泡は人魚に
血しぶきのかわりにとぶの水しぶき返り水ってなんだか綺麗
いつの日かわたしの胸に飛び込んで来たなら声をかえしてあげる
陸なんてもう懲りたでしょ？恋よりもすごい魔法をみせてあげたい
誰かとの幸せなんて祈らないわたしあなたを幸せにする
神様がいるとするなら失ったあの日の声の中がそうかな

離れないでね 全美

ベルベル人のベルベルのところが愛おしい風の通り道
モロッコに行きたい人たちを集めてモロッコの魅力を聞きたい
青壁に溶け込むように作られた青空を吸い込むように作られた肺
猫がまた猫を呼ぶ昼日中の街に溶ける影法師五つ
サヨナラが似合う街でカタコトのサヨナラを聞くサヨナラを言う
わたしまだここにいたい いればいい いてもいい 声が聞きたいだけ
見たことも触れたこともない土地を地図の上だけとして生きる
喫茶ジャマイカの店主が来年初めてジャマイカに行くんだって
熱風が吹く街にいてここではないどこかを思う田園都市線
また今日も知らない土地を映しだすテレビだけが忙しそうに
世界は相変わらず隣にあって仲良くななくても離れないでね

永遠不滅 深山睦美

「霊夢です」「霊夢以外だぜ」「今日は自他境界について解説するぜ」
流れ星・・・あの人の右目と左目を入れ替えて
白鷺が墨を垂らしていくように友達だったことありがとう
私にも夢はあると思ってた夢はあるかと訊かれるまでは
中身より字の汚さが注目を集めた少年Aの告白
折り鶴が逃げ出さぬよう羽根を挽ぐ夢を見ていた船の形で
大丈夫死ぬこと以外かすり傷生きているだけでもかすり傷
ありのままの自分自身を受け入れる必要は無い心に虹を
満月と叫んで走る満月を見るたび皆が思い出すよう
「命」と言って命のポーズをしたくなる赤ちゃんとかをふいに見た時

等身大のなつやすみ 彩結ゆあ

日々を食べすぎてしまって過食気味 地下鉄で涼むこともあるよね
 カナブンがトイレの窓で騒いでいる豊かさ測ると残酷だろうか
 プールサイド覚えていない夏のこと日記も絵も描けなくて良かった
 教室と唱えるたびに身ぶるいをするあまりにも青すぎた海
 青空の色を思い出せなくてサニーレタスを三枚食べる
 陽が落ちるぼろりぼろりと暮れてゆく 無意味もなるべく許してよ地球
 海の絵にいつかの約束がうかんで百万円でも買うとこだった
 知っているふりしていたこと知っているふりして塩加減が不明瞭
 呪いってもっとこわいものだと思っていた 買って解決できたらいいよ
 これからの天気予報は虹だから長ぐつカップなみだ乾くよ

近所の定食屋に僕はまだ行けない ただのたなか

洗濯機ぐるぐる回る土曜日に行こうと思って行かずに終わる
 ポストには光るメニューのチラシだけ誰かと食べる気配などせず
 食パンの焦げた部分を削りたるその間だけは世界が止まる
 くだびれたTシャツひとつで買い出しへ人目気にして戻る交差点
 冷蔵庫のもしの袋が泣きそうで賞味期限の声が聞こえる
 エアコンのリモコン見つからないだけ冷蔵庫だって応援してる
 フライパンのへりでのたうつ卵焼き箸で息の根止めるかのごと
 カーテンが昼の重さで揺れている誰もいない部屋に光だけ差す
 洗剤を切らして三日目 泡のない洗い物にも慣れてしまった
 冷凍の唐揚げが僕の家族なら電子レンジは神かもしれない

The50回転ズというスリーピースロックバンドについて きんかく

The 50 回転ズという激しめに燃える光を知っていますか？
 汗だくのおカップおじさん三人が救いだったりする二十代
 コロナ禍に待ち続けているレスポンス 私も叫んでしまいたかった
 離せないギタービックがあるせいでやむを得ず立てられる中指
 ロックとはひとつの意志でこの星の全ての窓を割るということ
 何番煎じだったとしても私には意味でしかない 生きているから
 似合わないなりに愛しているせいでアイデンティティのないラブソング
 ロックンロール少年院へ行きましょう衝動だけを篝火として
 泣きそうな夜はブルース処方して私の空洞に響かせて
 やめないで 一番星になるためにあなたがマイクにする口づけを

mix 森屋たもん

パスワード忘れた僕の mix. を眺めてめっちゃ共感してる
 元カノの日記を堂々と読みに行く足あと廃止を知っているから
 レビュー欄でベタ褒めしてるCDを多分僕だけまだ聴いている
 「もう無理」から始まる日記を書いていたあいつは今も無理でいてほしい
 そうなんだ味方がいない気がしてるんだねコメント数ゼロなこと
 二〇〇五年三月僕は就職してその辺の日記は見たくない
 本名でネットをやるという事は今の僕にもまだできてない

あれがわたしの空だった 武井窓花

企みが明るみになる七月の反射をかえす首都のビル街
僕たちは見たこともない富というものに隠されてある落書き
実はねと打ち明けるとき知っていてほしいあなたを好きであること
靴底に滲む熱とか雨とかが僕を笑顔にするものごと
街路樹が丁寧に折りたたまれて今朝受け取ったからありがとう
改札を流れて向こうへゆくひとの顔を見ながら話したい
街を去る朝にやって来た男は都会で生きてから世を去った
強すぎる風の日だったタクシーを待っていたし愛を待っていた
空がない、という人の居て空を見たあれがわたしの空だった日に
寂しいが繭だった日々のそばにある銀色の東急東横線

魚前式 鈴木智花

炎天にけぶれる空よこの灼けるやうな陽射しは江ノ島よ何故
拭つても拭つても汗 人間のからだのふたりえのすいに行く
弁天の嫉妬くらゐで揺らぐならそれつて愛の方が脆いな
相模湾大水槽の前に立つ青とみどりとはばゆいひかり
マイワシの群銀色に輝いて魚前式つていいんぢやないか
魚と目があふ気の所為ではないと思ふアクリルガラス60センチ
くらげくらげくらげ漂ふアカリウム口づけするにほどよい暗さ
イルカショー最後の回を待ちませうたこ焼きとチュロス分け合ひながら
抱き合つて見つめあふのおなじくらゐおなじものをあなたと見たい
いますこし手を繋いだまま歩きたい人もまばらに暮れる江ノ島

X account

鳳凰原岬 @tankaofmisaki
鳥さんの臉 @withoutSSRI
深山睦美 @57577_77575
全美 @ZENMIN15
きんかく @kingkaku_tanka_
彩結ゆあ @iromusubi_yua
森屋たもん @monsontanka
ただのたなか @Shironopa_ka_
鈴木智花 @suzukitomoka106
武井窓花 @tanka_madoka
はるかぜ @spring_bird_gr

デザイン・編集：はるかぜ @spring_bird_gr



そういう自由 はるかぜ

いつもよりゆっくり話す女医の目は哀れみ帯びていそう見れない
芽がでてでも仕方のなかった種もあるみたいに背中をさする看護師
簡単なことではないと知りつつも授かるという動詞のたるさ
入院は一泊のみと短くてしかし一生休みたかった
遠巻きに双子を見ている公園の撤去されたる遊具の余白
感情は大きなダムで飼ひ慣らし消毒液をどばどば入れた
甘いものを差しだすひとの気遣いに食べたくないと言えず、ふたつも
予定通り復帰しますと電話してコーヒーを飲むそういう自由
日常が戻りつつある早朝はロイター板の逆上がりたち
いつせいに鳩が飛び立つ駅前で腹式呼吸を思いだせそう